

2010年度湘南藤沢学会「シンポジウム・研究ネットワミーティング基金」

## 報告書： 外交政策ワークショップ・プレゼンテーション大会

責任者：総合政策学部教授 草野厚

### 1. はじめに

創造実践科目「外交政策ワークショップ」はワークショップ形式を中心に、学生が自ら問題を発見し、政治学・経済学・社会学・歴史学といったディシプリンを超えて解決策を提示する。こうした問題発見・解決ワークショップの集大成として毎年、報告大会を開催している。

### 2. 目的

本活動の目的は、日本の外交政策と国際関係に関するテーマで、新入生が共同で問題提起・解決策を報告・討議すること（及びその事前準備を含む）によって、SFCにおける研究生への端緒となることである。

### 3. 活動内容

本大会は、問題発見・解決ワークショップの集大成として毎年、開催している。本年は15のグループが報告を行い、外交・安全保障、経済協力・貿易といった分野に関わる実務家・研究者の方々からコメントを頂戴する。最終的には、論理性、独自性、チームワークなどの観点から、学生らの報告を評価する。大会のジャッジとして、以下の方々のご出席を賜った（五十音順）。

秋元義孝様（外務省中東アフリカ局アフリカ審議官）、古川園智樹様（慶應義塾大学環境情報学部講師（非常勤））、本多倫彬様（東京海上日動リスクコンサルティング株式会社ERM事業危機管理グループ研究員）、

村山 弘平様（共同通信社国際局海外部海外部長）。

#### 【大会の様子】

<写真1：開会式>



<写真2：学生による報告>



### 4. 活動概要

活動場所：慶應義塾大学 SFC θ館活動日時：2010年7月10日（土）

#### 【タイムスケジュール】

11:00 開会式（ジャッジ紹介、順番決め）  
11:20 報告セッション1（5班分の報告）

13:00 昼食休憩  
 13:40 報告セッション 2 (5 班分の報告)  
 15:20 小休憩  
 15:35 報告セッション 3 (5 班分の報告)  
 16:55 小休憩 (集計作業)  
 17:20 閉会式 (ジャッジ講評、表彰式)  
 17:55 報告大会終了  
 18:15 打ち上げ開始 (生協食堂にて)  
 19:55 打ち上げ終了

## 5. 報告内容

各班の報告テーマは以下の表の通りである。持ち時間は合計 20 分、内訳は、報告時間が 14 分、ジャッジによる質疑応答が 6 分、準備・撤収に 1 分であった。

発表テーマ	
1 班	北方領土 ～北方の環境問題解決から日露友好へ～
2 班	対東アジア環境外交
3 班	我が国の燃料政策を今後より安定的なものにするための効果的な政策を提言
4 班	留学を通じた友好的な外交関係の構築
5 班	歴史問題からみる日韓外交～歴史認識の改善にむけて～
6 班	日本の安全保障-日米安保を中心に
7 班	現時点で関係が希薄な国との外交と日本のあり方
8 班	アフリカへの開発支援と資源確保
9 班	合理的な世界進出～環太平洋造山帯を時計回りに～
10 班	犯罪と外交
11 班	東アジア共同体形成における日本

	の役割
12 班	ODA ～インド・中国・アフリカに注目～
13 班	「EU から見る日本の原子力技術が果たすことの出来る国際的な役割」
14 班	日本と東南アジア ～WIN-WINの経済関係～
15 班	世界の食糧危機における日本外交の役割

1 位から 3 位が表彰された他、部門別に、実現可能性賞、チームワーク賞、論理性賞などが決定された。

(本大会のジャッジシートは SFC メディアセンターにて期間限定で公開中)

## 6. 大会の成果

本プレゼンテーション大会により、学生が自ら問題を発見し、政治学・経済学・社会学・歴史学といったディシプリンを超えて解決策を提示するという授業の目的が達成された。

## 7. 謝辞

本活動を行うにあたり、ご協力を頂いたジャッジの方々、準備にご協力頂いた皆様をはじめ、湘南藤沢学会「シンポジウム・研究ネットワークミーティング基金」のご支援に改めて感謝申し上げます。

文責：大会責任者 外交政策ワークショップ TA  
 政策・メディア研究科 修士課程 2 年  
 竹澤理絵 (rt@sfc.keio.ac.jp)